

平成29年度 学校評価

伊予市立伊予小学校

【評価の基準】

- A：目標を達成 (8割以上が肯定)
 - B：おおむね目標を達成 (6割以上が肯定)
 - C：あまり達成できていない (6割未満が肯定)
- ※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【評価母体数】

教職員 28人
 児童 431人
 保護者 413人
 地域 23人

【評価の基準・肯定割合】

- ◎ 8割以上肯定
- 6割以上肯定
- △ 6割未満が肯定

【アンケートの内容】

- ア：たいへんよい
- イ：よい
- ウ：あまりよくない
- エ：よくない
- オ：わからない

【目標値】 80%が肯定 以下同様

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察・改善の方策	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果 (%)					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣 (1~3年生は30分以上、4年生以上は、学年×10分)以上学習する習慣が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎月実施している家庭学習強調週間の自主学習ノート提出率は、どの学級も9割を超えており、自主学習に取り組む習慣がかなり定着していると言える。 ● 保護者アンケートの結果が目標値に達成していないことから、保護者から見ると家庭学習の時間や質は、まだ十分ではないということが伺える。 ◆ 各学年に応じた宿題を計画的に出すなどして、ある程度の学習時間が確保できるようにするとともに、自主学習でも内容面の充実を図れるよう、個々の児童の実態把握や個別指導により力を入れ、よい取組を紹介する等、工夫していきたい。 	教職員 ◎: 96	96	17	79	4	0	0	
		児童 ○: 87	87	46	41	11	2	0				
		保護者 ○: 73	73	25	48	20	7	0				
	地域											
	発達段階に応じた表現力 (話す・書く) が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員、児童、保護者の結果にずれがある。時と場所、相手に応じた表現力は、まだ十分満足できる状況ではないと考える。 ◆ 自分の思いや考えを伝えたいという意欲は高いと思われる。様々な場面で伝える機会を設定し、授業の中でも意図的に話す、書く活動を取り入れていきたい。 	教職員 △: 57	57	0	57	43	0	0		
	児童 ◎: 85	85	48	37	12	3	0					
	保護者 ○: 78	78	26	52	16	4	2					
	地域											
	学年に応じた漢字の読み書きの力や計算の力の基礎・基本がほぼ身に付いている。(漢字・計算の習得率80%以上)	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 漢字の読み書きの力は、どの学年も概ね身に付いている。計算力については、高学年は内容的にも難しくなり、個人差が広がっていることが考えられる。 ◆ 朝のドリル学習の「学びの広場」と個別指導の「伊予っ子ルーム」を引き続き継続するとともに「分かる、楽しい授業」となるよう日々の授業改善に努めたい。 	評定テスト ◎: 83	83							
計算テスト ◎: 86	86											
地域												
心の教育の充実	道徳の時間を中心に自他の生命を大切にすることをよりよく生きたいという心が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度も生命尊重を道徳教育の重点目標とし、各教科等での指導、学校行事、集会、栽培活動、避難訓練等あらゆる教育の場で命に関する指導の充実を努めている。そのため、児童も自他の命を尊重しながら生活している様子が伺える。 ● 道徳の授業において、指導過程を工夫した成果が徐々に現れ、児童が、よりよい生き方について深く考えることができるようになってきている。 ◆ 道徳の時間と特別活動との関連、ノート、ワークシート等の活用、「道徳の時間」の様子の家庭への情報提供などについて研究を深め、よりよく生きようとする児童、道徳的行為となって体現する児童を今後も育てていきたい。 	教職員 ◎: 96	96	22	74	4	0	0		
	児童 ◎: 95	95	74	21	5	0	0					
	保護者 ◎: 94	94	31	63	3	0	3					
地域												
一人一人の違いを認め合い、人権を大切に作る集団づくりがなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 概ね人権が守られていると考えられる。しかし、ごく少数ではあるが、不安を感じている児童・保護者もいるという結果を真摯に受け止め、個々の人権を大切に仲間づくりに取り組んでいきたい。 ◆ 教育相談等を通して児童の悩みに対応するとともに、一人一人を大切に支持的風土のある学級経営が進められるように、日々の指導に努めたい。また、学校全体でも人権を大切に作る集団づくりの工夫を検討したい。 	教職員 ◎: 91	91	22	69	9	0	0			
児童 ◎: 93	93	56	37	6	1	0						
保護者 ◎: 90	90	24	66	6	0	4						
地域												
健康教育の推進	楽しく学校生活が送れている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● ほとんどの児童が学校生活を楽しく感じている。保護者・教職員がそれぞれの立場で児童の様子を気にかけて、問題があるときには協力して適切に対応するよう努めている。 ◆ 日常会話や教育相談、定期的な学校生活アンケート等を通して、否定的な回答をした8%の児童の思いに寄り添いながら、継続的に対応していきたい。 	教職員 ◎: 100	100	35	65	0	0	0		
	児童 ◎: 92	92	68	24	6	2	0					
	保護者 ◎: 96	96	49	47	3	1	0					
	地域											
「早ね、(低学年は9時、中学年は9時半、高学年は10時)早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 塾や習い事をしている児童は、寝る時刻も遅くなってしまいう傾向になる。また、ゲーム・インターネットに夢中になり、遅くなる児童もいる。 ◆ 睡眠の重要性を理解させ、規則正しい生活習慣が身に付くよう、生活リズムカードを活用するなどして、継続して指導を行いたい。 	教職員 ◎: 87	87	0	87	13	0	0			
児童 ○: 76	76	49	27	17	7	0						
保護者 ○: 79	79	40	39	18	3	0						
地域												
外遊びや個に応じた体力づくり (マラソンやなわとびなど) で健康の保持・増進に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 昼休みの外遊びや業間マラソンを奨励し、体力づくりの機会を多く設けている。また、マラソンや縄跳びなどに目標を持って意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ◆ 寒くなる時期でも外で体を動かせるように、積極的かつ継続的な声掛けをしていきたい。 	教職員 ◎: 87	87	22	65	13	0	0			
児童 ◎: 87	87	60	27	10	3	0						
保護者 ○: 77	77	36	41	18	5	0						
地域												
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価指標が昨年より明確になっており評価しやすい。学力面では、テスト結果のデータに基づいて、高評価となっている。健康面では、学年に応じた就寝時刻を明記したことから、昨年より厳しい評定となっており、次年度に向けて課題が見えてきた。 ○ 人権教育では、今年度、保護者の評価欄が加わりありがたい。教職員、児童、保護者の評価のずれがなく安心した。 ○ 児童(4~6年生)の携帯電話・スマートフォンの所持率が高い(46%)。1日の使用時間が長い児童もあり、学習時間・睡眠時間の減少、悪口、迷惑メール等のトラブルも見受けられる。家庭へ注意を呼びかけていく必要があるのではないか。 ○ 体力づくりでは、二極化が進んでいる。家庭でも努力していきたい。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上に向けて、毎学期末に漢字と計算のチェックテストを実施し、基礎・基本の定着に努めた。また、学力と基本的な生活習慣には相関関係があるといわれているが、就寝時刻が遅い児童もいるため家庭とも連携して改善していきたい。 ○ 最近では、スマートフォン等の長時間使用によるトラブルや弊害は、社会問題にもなっている。学校で情報モラル等についての指導を充実させることはもちろんのこと、使用時間や使い方等について家族でルールを決めたり、フィルタリングをしたりするなど、家庭へも協力を呼び掛けたい。 ○ 体力づくりについては、日々の外遊びを奨励するとともに、マラソンや縄跳びなどにもめあてを持って取り組めるよう、意欲化を図る工夫をしていきたい。 							

項目	小項目(重点目標)	評価指標	評定	考察・改善の方策	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%				
							4	3	2	1	0
生徒指導	生徒指導の徹底	いつでもどこでも自分から先に挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝のハイタッチ挨拶運動など、児童会や委員会の主体的な活動により、挨拶に対する意識は高まってきた。しかし、まだまだ「いつでも」「どこでも」実践できているとは言えない。言葉遣いを含めて、日々指導を重ねているところである。 ◆ 月目標にも示し、継続して指導していくことが大切である。また、学校・家庭・地域がそれぞれの場で挨拶を交わしたり児童に声を掛けたりするなど、地域ぐるみの積極的な働きかけを進めていきたい。 	教職員 児童 保護者 地域	△: 52 ◎: 86 ○: 61 ◎: 95	0 40 12 41	52 46 49 54	48 12 32 0	0 2 6 5	0 0 1 0
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● どの学級や児童にも起こり得る問題として認識を持ち、毎月の生徒指導部会の開催や学校生活アンケート等で児童の様子について実態把握に努めた。必要に応じて関係諸機関とも連携を図り、組織的に対応している。 ◆ 機会を捉えて家庭や地域での児童の様子について情報収集を行い、早期発見・早期対応につなげたい。 	教職員 児童 保護者 地域	◎: 100 ◎: 90 ○: 74	26 53 15	74 37 59	0 7 14	0 3 1	0 0 11
特別支援教育	特別支援の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 年度当初に特別な支援の必要な児童についての共通理解を図り、全校での支援体制づくりを行ったが、具体的な支援方法や成果の確認等については不十分な面もあった。 ◆ 特別支援教育コーディネーターを中心に、支援方法の具体的な手立ての確認、その見直し等を確実にし、全教職員で共有できるように努めたい。 	教職員 児童 保護者 地域	○: 74	0	74	26	0	0
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別な支援を必要とする児童について、その実態に応じて伊予市特別支援教育巡回相談員、特別支援学校等と連携を図り、支援に当たった。また、特別支援学級及び特別支援学級担任も、通常の学級で特別な支援を要する児童への支援ができた。 ◆ 児童の実態に即した指導・支援が行えるよう、支援の計画や実践、評価を丁寧に行い、関係教員とも共通理解を図っていきたい。 	教職員 児童 保護者 地域	◎: 91	26	65	9	0	0
研修	指導力の向上	実践力のある教師として、分かりやすく工夫した授業に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年部での教材研究や情報交換など協力体制が整い、指導方法の工夫改善が図られている。 ◆ 児童の学習意欲を高める教材・教具の工夫や、ICTの活用など、学習が苦手な児童、集中力を欠く児童も「分かる」、「できる」指導方法を研究する必要がある。 	教職員 児童 保護者 児童 保護者 地域	◎: 91 ◎: 90 ◎: 87	0 55 22	91 35 65	9 8 7	0 2 0	0 0 6
		信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、前担任、支援員、相談員、管理職、家庭等と児童の実態や指導の仕方などについて情報交換や相談を行い、連携して一人一人に合った対応に努めている。 ◆ 家庭との協力体制を一層充実させ、児童のよりよい成長のために尽力したい。 	教職員 児童 保護者 地域	◎: 91	17	74	9	0	0
		切磋琢磨する教師として、常に学ぶ姿勢をもち、自己を向上させようとしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究授業や研究協議、普段からの学年部での教材研究などを通して、学び合う教師集団が形成されている。 ◆ 研修内容について教職員の希望を取り入れ、内容の充実を図ったり、それぞれの持つ優れた教育技術を伝え合う姿勢を大切にしたりする。 	教職員 児童 保護者 地域	◎: 91	13	78	9	0	0
学校関係者評価委員の所見		<p>○ 挨拶の評定では、教職員、児童、保護者との間に意識のずれがある。教職員は厳しい評定を付けているが、これは、昨年度までの評価指標にはなかった「いつでも、どこでも、自分から先に」という視点が加わり、児童に対してより高いレベルの実践を求めているという表れであると考え。毎朝、教職員は、校門で子どもたちを気持ちのよい挨拶で出迎えている。保護者も子どもの手本となれるよう頑張りたい。</p> <p>○ いじめ・不登校の問題については、アンケート結果に「あまりよくない」や「よくない」と回答している児童が少数でもいることを重く受け止め、今後も更に入力して解決に向けて取り組んでほしい。また、別添の学校生活アンケートでは、子どもたちの実態がよくまとめられており、情報提供をありがたく思う。</p>	学校の対応	<p>○ 「気持ちのよい挨拶」ができるということは、様々な人とコミュニケーションをとる上で、子どもたちが社会に出てからも身に付けておかなければならない大切な力である。これまでの挨拶運動等の取組により、校内での挨拶は随分よくなってきている。今後の課題として、校内だけでなく、家庭や地域でこそ当たり前のように意欲を喚起し、児童会活動等も更に活性化させるなど取組を工夫していきたい。また、保護者や地域の方々が子どもたちのよい手本となって、地域ぐるみで取り組めるよう協力を依頼したい。</p> <p>○ 今年度も、生徒指導面には特に力を入れ、一人一人の子どもを全教職員で見守り、育てるという姿勢で取り組んできた。学校生活アンケート実施後は、必ず一人一人と教育相談を行い、子どもの心に寄り添う指導に心掛けている。今後も児童の実態把握や情報収集に努め、早期発見・早期対応につなげていきたい。</p>							

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%				
							4	3	2	1	0
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	● 火災や地震、不審者の侵入等を想定しての避難訓練を学期に1回程度実施し、教師及び児童の安全対応能力を高めている。今年度は、12月に小中合同の避難訓練も実施し、小中で避難方法を確認し合った。 ◆ 今後も災害や危険から身を守り適切に行動できるよう、様々な場面を想定した訓練を行っていききたい。また、次年度は、保護者への引き渡し訓練なども計画していききたい。	教職員	◎: 96	30	66	4	0	0
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	● 地域の方やPTAの協力により、登校時の見守り活動が充実している。 ◆ 発達段階に応じた具体的な指導や下校後の見回りを通して、児童自身の安全に対する意識を高めていききたい。	教職員	◎: 96	35	61	4	0	0
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	● 保護者と地域に、「わからない」という回答がある点や、教職員・児童に10%程度の否定的な回答がある点について真摯に受け止め、改善に努めたい。 ◆ 日々の安全点検や清掃などの着実な取組によって環境美化、施設の整備を進め、安全安心な学校づくりに努めたい。	教職員	◎: 87	22	65	13	0	0
保護者・地域住民との連携	地域に根ざした学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	A	● 学年ごとに特色ある教育活動が計画されている。地域の人・もの・自然を効果的に活用した教育活動を通して、知識や技能を得ることができている。 ◆ 活動の内容が限られているため、今後、地域の方の人材情報を広げる必要がある。	教職員	◎: 96	39	57	4	0	0
		学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	● 今年度は特に、ホームページの充実に力を入れ、学校行事や各学年の活動の様子を迅速に更新し、タイムリーに情報を提供することができた。 ◆ 今後も積極的に情報を発信し、学校の教育活動への理解や協力が得られるよう努めたい。	教職員	◎: 100	74	26	0	0	0
		幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	● 幼稚園・保育所・中学校とは互いに授業参観や保育参観を行ったり、児童の情報交換の場を設けたりして交流を深めている。 ◆ 各発達段階の子どもの実態や指導内容等の理解を図ることで、幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校への円滑な移行ができるよう、今後も更なる連携を図っていききたい。	教職員	◎: 91	30	61	9	0	0
学校関係者評価委員の所見		○ 防災については、地域に自主防災組織もあるが、学校との連携が十分に図れていないのが現状である。災害による避難勧告等が出た際に備え、適切な対応が取れるよう、行政も交えて、学校・地域で話し合いの場を持つ必要があるのではないかと考える。 ○ 地域の人材や教育資源を生かした教育活動が繰り広げられており、今後も続けてほしい。3年生の地域の名人さんに学ぶ学習では、昔の遊び等の伝承もされており、ゲーム世代の子どもたちには貴重な経験である。地域人材も高齢化して人材不足も懸念されるため、公民館でも新たな遊びや活動を学校に提供していけるよう努めたい。 ○ ホームページが日々更新されており、教職員と地域の方の肯定率が100%と好評価を得ている。学校での児童の様子がよく分かり大変ありがたい。 ○ 幼稚園・保育所・中学校との連携がよく図られている。特に小・中は、敷地を共有しており、学校行事等でも交流が深いため、保護者の間でも好評である。	学校の対応	○ 昨年9月の大雨による土砂災害警報で学校が避難所となり、10数名の避難者が体育館に集まったが、避難者への対応の仕方について課題が見えてきた。市の危機管理課にも声を掛け、地域の自主防災組織、学校との話し合いの場を持つよう進めていきたい。また、避難訓練についても学校の中での訓練ではなく、地域を含めた訓練の機会をつくり、それぞれの立場で共通理解をしておくことが大事だと考える。 ○ 学校・家庭・地域の三者で連携を取り合うことが子どもたちの豊かな育ちの一助となる。今後も新たな地域人材の発掘にも努め、情報連携・行動連携をして地域に根ざした教育活動を進めていきたい。 ○ ホームページ等で学校の教育活動を紹介することで、学校により親しみを持っていただくとともに、学校の経営方針への理解を深めていただきたいと願っている。今後も、積極的に情報を発信していききたい。 ○ 幼稚園・保育所・中学校と連携を図り、各発達段階の子どもの実態や指導内容の理解を図ることは、子どもたちのスムーズな成長につながる。今後も、更なる連携が図れるよう計画的・継続的に進めていきたい。							